

気候変動に適応する強靱な新養殖事業－Ⅱ

真珠

渥美貴史・岡野健次・今井絵美・奥村宏征

目的

本事業では、真珠養殖業の気候変動への適応を目指して、産官連携の種苗生産プラットフォーム「三重県アコヤシードバンク」のもと、様々なアコヤガイを系統保存するとともに、選抜した種苗（試作貝）の飼育試験を養殖業者と行うことで気候変動に適応できる種苗の安定生産につなげることを目的とする。

方法

1 アコヤガイ系統保存

水産研究所が保有する5つの系統について、表1のとおり系統保存を目的とした種苗生産を行い、各系統の種苗について9月上旬から飼育協力者（県内真珠養殖業者）2名が県内漁場で飼育した。各系統のへい死状況について、目立ったへい死があった場合はその発生時期およびへい死割合を飼育協力者から聞き取りを行った。

表1. 系統保存の親貝数、採卵日、剥離日

系統	親貝数	採卵日	剥離日
英虞湾	♀：13個体	6月20日	7月24日
	♂：8個体		
九鬼	♀：8個体	6月20日	7月24日
	♂：13個体		
二木島	♀：16個体	6月6日	7月13日
	♂：18個体		
京都	♀：10個体	6月20日	7月26日
	♂：5個体		
大村	♀：32個体	6月15日	7月24日
	♂：15個体		

2 アコヤガイ選抜種苗飼育試験

水産研究所が保有する3つの系統の親貝を用いて、表2のとおり計2種類の試作貝を生産した。

各試作貝について、10月中旬から試験協力者（県内真珠養殖業者）2名が県内漁場で飼育した。

表2. 試作貝の親貝数、採卵日、剥離日

種類	親貝数	採卵日	剥離日
試作貝A	♀：大村 9個体	6月15日	7月14日
	♂：英虞湾 2個体		
試作貝B	♀：大村 9個体	6月15日	7月14日
	♂：二木島 2個体		

結果及び考察

1 アコヤガイ系統保存

各系統のへい死発生時期は次のとおりであった。英虞湾系統は、9月末から10月中旬にかけて3割程度のへい死があった。九鬼系統は、9月にへい死が見られた（へい死割合は不明）。二木島系統は、9月下旬から10月上旬にかけて8割程度のへい死があった。京都系統は、10月から11月にへい死があった（へい死割合は不明）。大村系統は、10月上旬から10月中旬にかけてへい死があった（へい死割合は不明）。各系統ともに2名の真珠養殖業者がそれぞれ別の漁場で飼育を行ったものの、多くの系統でへい死した時期はほぼ同じであった。各系統の生残貝については飼育を継続し、次年度以降に系統保存する親貝として用いる予定である。

2 アコヤガイ選抜種苗飼育試験

試作貝Aについては、真珠養殖業者3名ともにへい死は見られなかった。一方、試作貝Bについては、真珠養殖業者3名ともに11月上旬から中旬に5～9割のへい死が見られた。

試作貝Bを飼育する業者の漁場は異なるものの、へい死した時期はほぼ同じであった。生残貝は現在も飼育を継続し、次年度以降に真珠母貝として用いる予定である。